



華となれ!

宮城県仙台二華中学校
学校だより 第2号

【発行日】 平成31年4月24日

【連絡先】 022-296-8101

【文責】 副校長 加茂 博行

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ!」には、社会に貢献できる真のリーダー（「華」＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

新入生オリエンテーション合宿開催

初夏を思わせるような、さわやかな青空が広がった4月17日に、1年生を対象に新入生オリエンテーション合宿・SR巡検が行われました。本校の総合的な学習の時間は、IS（インターナショナルスタディ）・SR（サイエンティフィックリサーチ）・CS（キャリアスタディ）の3領域で構成されており、SR巡検は、1年生のSR領域の中心活動となっています。泉ヶ岳を春・秋・冬の3回訪れ、自分たちが我々の木と名付けた一本の木を、1年かけて観察していきます。

観察の内容は、樹高や幹回りはもちろん、地表近くの相対照度や地表の生態までも調査をするという、かなり本格的なものです。こうして、泉ヶ岳の自然に触れながら観察の作法を学び、科学的な視点を身に付けていきます。

泉ヶ岳の林の中を歩いていくと、私たちは自然を常に目にすることはしていても、見つめていなかったことに気付かされます。歩くと足元でパキッと折れる枝の音、葉を落とした老木に青々と茂るヤドリギ、ザラザラとした樹皮とは対照的に美しい花を咲かせる木々たち。生徒たちは観察の中から自分たちを包んでくれている自然の魅力を再発見し、楽しみながら多くのことを学んでいました。



芳の平で真っ白なカタクリの花を発見。白いカタクリはたいへん珍しいそうです。

SR巡検ハイライト

1 船形山系のスケッチ

泉ヶ岳に向かう途中に、聖和学園短大にうかがって、屋上から船形山系を観察しました。泉ヶ岳を中心に、火山地形を遠くから観察し、全体像をとらえ、特徴をつかみました。スケッチをする際には、自分の拳を対象にかざし、だいたい縮尺をとらえてスケッチをしていきます。

約1時間の活動でしたが、生徒は手際よく山系の特徴を捉えたスケッチができていました。今後、理科の地学分野で活用して学習をしていきます。



拳を突き出して山系の大きさをとらえる生徒たち。

2 「我々の木」の設定と観察

芳の平に生える数多くの木の中から、1本の木を「我々の木」とし、春・秋・冬の3回にわたって観察をします。観察項目は胸高直径、木肌の状態、樹高、相対照度、葉形及び樹形のラフスケッチとかなり本格的です。また、樹木付近の地表に50cm四方の方形区（コドラート）を設定し、季節による変化を観察します。冬の巡検では、地表は雪の下となります。そのときには、スコップで雪をかき分けての観察となります。



工夫して樹高を計測しようとしている様子。

3 火山岩の採集・観察

オリエンテーション合宿最終日に、生徒にどの活動が最も印象的だったかを聞いてみたところ、この火山岩の採集をあげた生徒が多かったようです。

泉ヶ岳のヒザ川付近にある大きな岩のほとんどは安山岩です。しかし、ごくまれに黒っぽくてやや重い「幻の」玄武岩に出会えるのです。生徒たちはまるで宝探しをする冒険家のように一心不乱にハンマーを振り続けていました。採集した岩石を、大切にビニル袋に入れて持ち帰り、理科の授業で教材として使用します。



石を割って断面の組織を観察しています。

昼休みに素敵なコンサート 台湾から桃園市立大園國際高級中等學校の皆さんが来校

4月22日に国際交流の一環で、台湾から桃園市立大園國際高級中等學校の生徒35名が来校しました。当日は台湾の生徒一人に対して、本校の高校生1名がバディ（来校中に授業を一緒に受けて手助けする生徒のこと）としてついて、ともに学校生活を過ごしました。

そして、昼休みの時間に本校の音楽部が「ソーラン節」や校歌を披露しました。吹き抜けの校舎に響き渡る澄んだ歌声。中学生の生徒たちも2階から顔をのぞかせ、思わず聞き入っていました。



エントランスホールで音楽部の生徒（写真手前）が台湾から来校した生徒（写真奥）に校歌等を披露しました。



エントランスホールに飾られた鯉のぼり。エントランスの空間を自由に泳いでいるようです。